

NSG グループ

2026年3月期 通期決算報告

(2025年4月1日～ 2026年3月31日)

日本板硝子株式会社
2026年5月11日

目次



1. 2026年3月期 決算概要
2. 2027年3月期 業績予想
3. 新生NSGグループに向けて
4. まとめ

1. 2026年3月期 通期決算概要

連結損益計算書



前年度比で増収増益。営業利益は建築用ガラス事業の改善により増加。
営業利益は通期業績予想を下回るが、純利益は一過性の税効果もあって上回る

(億円)	1-3月期 (3か月)			通期 (12か月)			2026年3月期 通期業績予想
	2025年 3月期	2026年 3月期	差異	2025年 3月期	2026年 3月期	差異	
売上高	2,104	2,389	285	8,404	8,795	391	8,500
営業利益	57	103	46	165	288	123	310
営業利益率	2.7%	4.3%	+1.6pt	2.0%	3.3%	+1.3pt	3.6%
個別開示項目 (純額)	△ 27	△ 48	△ 21	△ 52	△ 55	△ 3	10
個別開示項目後営業利益	30	55	25	112	233	121	320
金融費用 (純額)	△ 71	△ 73	△ 2	△ 253	△ 283	△ 30	△ 270
持分法による投資利益	18	13	△ 5	55	57	2	60
持分法投資に関する その他の利益 (△損失)	-	△ 0	△ 0	-	△ 4	△ 4	-
税引前利益 (△損失)	△ 23	△ 4	19	△ 85	4	89	110
当期利益 (△損失)	△ 42	96	137	△ 135	55	190	40
純利益 (△損失)*	△ 38	96	133	△ 138	44	183	20
EBITDA	177	248	71	658	830	172	

*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

売上高・営業利益

売上高は為替影響もあり欧米の自動車用および建築用ガラス事業により増加し、通期予想を上回る。

営業利益は通期予想を下回るが、前年度比で増益。主に欧州の建築用ガラス事業が改善

【売上高および営業利益 (事業別) : 前年度比】

(億円)	売上高	営業利益
建築用	+ 120	+165
自動車用	+ 278	△ 27
高機能	△ 6	+ 11
その他	△ 1	△ 25
グループ全体	+ 391	+ 123

個別開示項目

北米の自動車用ガラス事業でのれんの減損損失 (34億円) を計上

法人所得税

英国において一過性の繰延税金資産計上 (88億円)

2026年5月11日 | 2026年3月期 通期決算報告

4

まず、4ページの連結損益計算書です。

表の左側が当第4四半期3か月の業績、真ん中が12か月累計の業績、そして右側が通期業績予想です。

当第4四半期の売上高は、2,389億円と、前年同期比285億円の増収となりました。営業利益は103億円と、前年同期から回復しています。12か月累計の売上高は、8,795億円と前年度比391億円の増収となり、また営業利益は288億円と同じく123億円の増益となりました。売上高は通期業績予想を上回りましたが、営業利益は下回りました。

営業利益の増減の事業別の内訳は、右側の表にあります通り、建築用ガラス事業が、欧州の販売価格上昇により改善、高機能ガラス事業も製品構成の改善があり、増益となっています。一方、自動車用ガラス事業では、北米の一時的な生産効率低下の影響もあり減益となりました。

営業利益より下の項目を見て頂くと、個別開示項目は55億円の費用でした。これには主に、第1四半期におけるベトナムの建築用ガラス製造子会社の当社持分譲渡益と第2四半期における英国債売却に伴う損失、そして当第4四半期における北米自動車用ガラス事業ののれん減損損失の計上が含まれています。

金融費用は283億円となり、前年度の253億円から30億円増加しました。

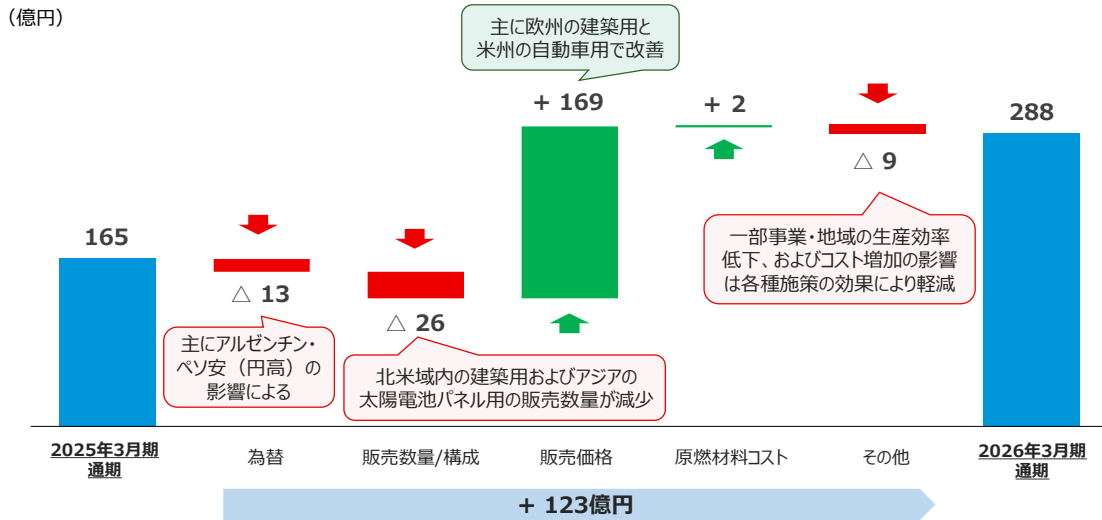
持分法適用会社については、
持分法による投資利益は57億円と前年度からわずかに改善しました。
これはブラジルにおける建築用ガラス事業のジョイント・ベンチャーであるセブラセ社の利益
が安定的に推移したことに加え、中国の自動車用ガラス事業の関連会社のSYPオートグ
ラス社の収益性が改善したためです。

法人所得税は英国において、収益性の改善に伴い88億円の一過性の繰延税金資産
計上があり、51億円の費用のマイナスとなりました。

以上から、法人所得税の費用のマイナス計上後の当期利益は55億円、
少数株主持分を差し引いた純利益は44億円となり、通期業績予想を上回りました。

営業利益差異分析 (通期)

主に欧州の建築用ガラス事業と米州の自動車用ガラス事業で、販売価格が改善。
一部事業・地域の生産効率低下やコスト増加の影響をフロート窯停止も含めたコスト改善により軽減



2026年5月11日 | 2026年3月期 通期決算報告

5ページは、4-3月期（12か月累計）の営業利益差異分析です。前年度累計の営業利益165億円から、当年度累計の営業利益288億円へと123億円の増益となりましたが、その構成要素を示しています。

「為替」による影響は、13億円のマイナスでした。これは当期間において主にアルゼンチン・ペソに対し円高となった影響が、その他通貨に対して円安となった影響を上回ったためです。

「販売数量/構成」は、26億円のマイナスとなりました。北米建築用ガラス事業の域内商業用不動産市場向け製品およびアジアの太陽電池パネル用ガラスの販売数量が減少しました。

「販売価格」は、169億円のプラスでした。欧州の建築用ガラス事業における販売価格の上昇が主要な要因です。自動車用ガラス事業でも値上げによる効果が見られました。

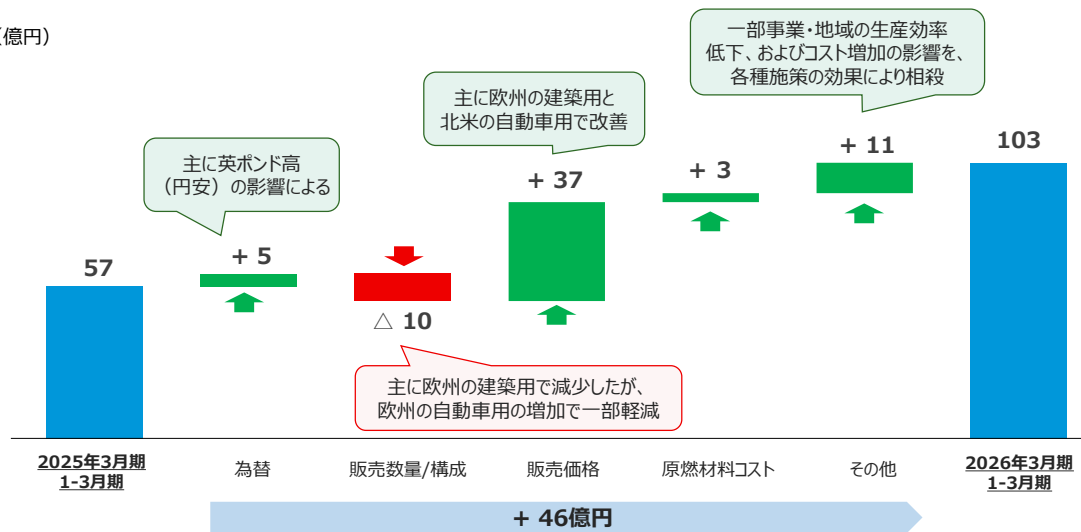
「原燃材料コスト」は、2億円のプラスでした。米国関税政策や中東情勢の影響を受け北米、日本を中心に原燃材料価格が上昇しましたが、グループ全体では欧州の天然ガスを中心に原燃材料価格が低下したため軽減されました。

「その他」は、9億円のマイナスとなりました。人件費を含むその他コストの増加や北米自動車用の生産効率低下、アジアの太陽電池パネル用ガラスにおける資産稼働率低下により大きな影響を受けましたが、前年度に実施したフロート窯停止やリストラを含めた各種施策の効果により軽減しました。

営業利益差異分析 (1-3月期)

主に欧州の建築用ガラス事業および北米の自動車用ガラス事業で、販売価格が改善。
一部事業・地域の生産効率低下の影響は各種施策によるコスト改善効果により吸収

(億円)



2026年5月11日 | 2026年3月期 通期決算報告

6

6ページは、第4四半期の営業利益差異分析についてです。
前年度第4四半期の営業利益57億円から当第4四半期の営業利益103億円へと46億円の増益となりましたが、その構成要素を示しています。

「為替」は、主に英ポンド高の影響もあり5億円のプラスでした。

「販売数量/構成」は、主に欧州の建築用ガラス事業で減少しましたが、欧州の自動車用ガラス事業の増加で一部軽減し、10億円のマイナスとなりました。

「販売価格」は、37億円のプラスでした。
主に欧州の建築用ガラス事業で販売価格が改善したことに加えて、北米の自動車用ガラス事業でも改善しました。

「原燃材料コスト」は、3億円のプラスとなりました。
主に欧州の建築用ガラス事業において、天然ガス価格が低下した恩恵を受けました。

「その他」は、11億円のプラスとなりました。
一部事業・地域の生産効率低下やコスト増加の影響を受けましたが、リストラを含めた各種コスト削減の効果が上回りました。

欧州ガラス価格の推移

ガラス製造業全体における需給状況の改善により、ガラス価格は上半期に上昇後、下半期は安定して推移

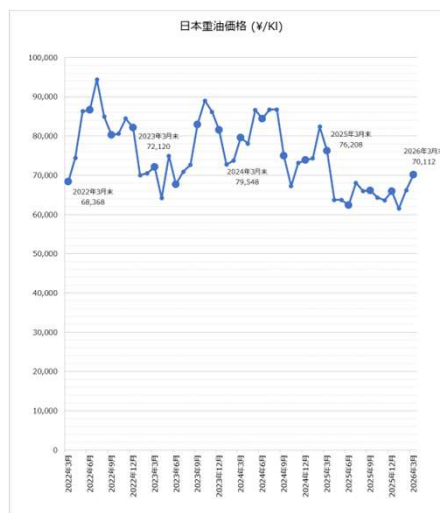
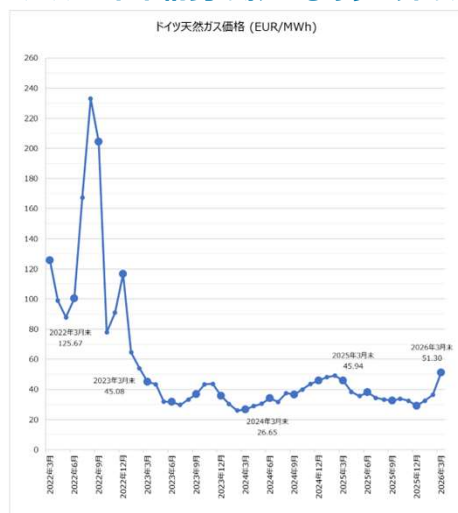


7ページはドイツのガラス価格の推移を示しています。

ガラス製造業全体における需給状況の改善により、ドイツのガラス価格は上半期に上昇後、下半期は安定して推移しました。

エネルギー価格の推移

欧州天然ガス価格および日本の重油価格は安定して推移してきたが、1-3月期は中東情勢の影響もあり上昇の兆し



続きまして、8ページでエネルギー価格の推移を示しています。

左側がドイツの天然ガスの市場価格の推移、
右側が日本の重油の市場価格の推移になります。

ドイツにおける天然ガスの価格および日本における重油価格は、
今年度はこれまで安定して推移してきましたが、1-3月期は中東情勢の影響もあり
上昇の兆しが見られました。

連結貸借対照表



為替影響等を主因に自己資本比率は13.5%と前期末より3.1pt改善。
有利子負債は主に運転資本の増加と為替影響により増加

(億円)	2025年 3月末	2026年 3月末	増減
資産合計	10,329	11,175	846
非流動資産	7,098	7,756	659
流動資産	3,232	3,418	187
負債合計	8,905	9,320	415
流動負債	4,094	5,603	1,508
非流動負債	4,811	3,717	△ 1,094
資本合計	1,424	1,855	431
親会社の所有者に帰属する持分	1,081	1,512	432
自己資本比率 (%)	10.5%	13.5%	+3.1pt
有利子負債	5,248	5,483	235

非流動資産

主に為替影響（円安）により
有形固定資産等が増加

流動負債

主に長期借入金からのシフトにより
短期借入金が増加

自己資本比率

13.5%と前期末比で改善。
主に為替影響、アルゼンチンにおける
超インフレ調整に伴う資産価値の増加
および公正価値で測定される金融資産
の純変動による

有利子負債

主に運転資本の増加と為替影響により
増加

2026年5月11日 | 2026年3月期 通期決算報告

9

9ページは連結貸借対照表です。

2026年3月末時点の総資産は1兆1,175億円と
2025年3月末時点から846億円増加しました。

非流動資産は、主に円安の影響により、有形固定資産を中心に資産が増加した結果、
659億円増加しました。

流動負債は、長期借入金からのシフトにより短期借入金が増加したため、
1,508億円増加しました。

親会社の所有者に帰属する持分は、前期末から432億円増加し1,512億円でした。
これは主に為替の影響、アルゼンチンにおける超インフレ調整に伴う資産価値の増加およ
びその他の包括利益を通じて公正価値を測定する金融資産の純変動によるものです。

この結果、自己資本比率は13.5%と前期末から3.1ポイントの改善となりました。

有利子負債は前期末比で235億円増加し、5,483億円となりました。
前期末からの増加は主に、運転資本の増加と為替の影響によるものです。

連結キャッシュ・フロー計算書



フリー・キャッシュ・フローは運転資本の増加により前年度比で減少

(億円)	1-3月期 (3か月)			通期 (12か月)		
	2025年 3月期	2026年 3月期	差異	2025年 3月期	2026年 3月期	差異
営業活動によるキャッシュ・フロー	592	382	△ 210	524	336	△ 188
（うち、運転資本の増減）	489	233	△ 256	295	△ 105	△ 400
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 28	△ 49	△ 21	△ 424	△ 326	99
（うち、有形固定資産の取得）	△ 169	△ 95	74	△ 547	△ 418	129
フリー・キャッシュ・フロー	564	333	△ 231	100	11	△ 89
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 414	△ 244	170	85	△ 147	△ 232
現金及び現金同等物の増減	150	89	△ 61	185	△ 136	△ 321
現金及び現金同等物 期末残高				630	551	△ 79

営業活動によるキャッシュ・フロー
営業増益だが運転資本の増加により前年度比で減少

投資活動によるキャッシュ・フロー
有形固定資産の取得に伴う支出の減少により前年度比で改善

フリー・キャッシュ・フロー
前年度比で減少

2026年5月11日 | 2026年3月期 通期決算報告

10

10ページは、連結キャッシュ・フロー計算書です。

営業活動によるキャッシュ・フローは、当第4四半期3か月では382億円のプラスでしたが、前年同期対比で減少しています。累計においても、前年度の524億円から336億円へと減少しています。これは、営業利益は回復したものの、運転資本が当第4四半期は前年同期ほど減少せず、通期累計では増加したためです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、累計では326億円となり前年度比99億円改善しました。太陽電池パネル用ガラス事業等での戦略投資がかさんだ前年度に比べ、有形固定資産の取得に伴う支出が減少したことに加え、ベトナムフロートガラス社の当社持分譲渡による収入があったことが要因となっています。

以上によりフリー・キャッシュ・フローは、当第4四半期では333億円のプラス、累計では11億円のプラスでした。投資活動によるキャッシュ・フローは改善しましたが、運転資本の増加により営業活動によるキャッシュ・フローが減少し、前年度比で減少しています。

セグメント情報



(億円)	2024年3月期 通期			2025年3月期 通期			2026年3月期 通期			増減	
	売上高	%	営業利益	売上高	%	営業利益	売上高	%	営業利益	売上高	営業利益
建築用ガラス事業	3,718	45%	291	3,630	43%	136	3,750	43%	300	120	165
欧州	1,415	17%		1,254	15%		1,395	16%		141	
アジア	1,096	13%		1,197	14%		1,090	12%		△ 107	
米州	1,206	14%		1,180	14%		1,265	14%		85	
自動車用ガラス事業	4,176	50%	113	4,294	51%	77	4,572	52%	50	278	△ 27
欧州	1,747	21%		1,765	21%		1,920	22%		155	
アジア	783	9%		823	10%		823	9%		0	
米州	1,645	20%		1,707	20%		1,830	21%		123	
高機能ガラス事業	399	5%	71	466	6%	76	460	5%	86	△ 6	11
欧州	106	1%		102	1%		112	1%		10	
アジア	275	3%		347	4%		332	4%		△ 15	
米州	18	0%		17	0%		15	0%		△ 1	
その他	33	0%	△ 117	13	0%	△ 123	12	0%	△ 149	△ 1	△ 25
合計	8,325	100%	359	8,404	100%	165	8,795	100%	288	391	123

2026年5月11日 | 2026年3月期 通期決算報告

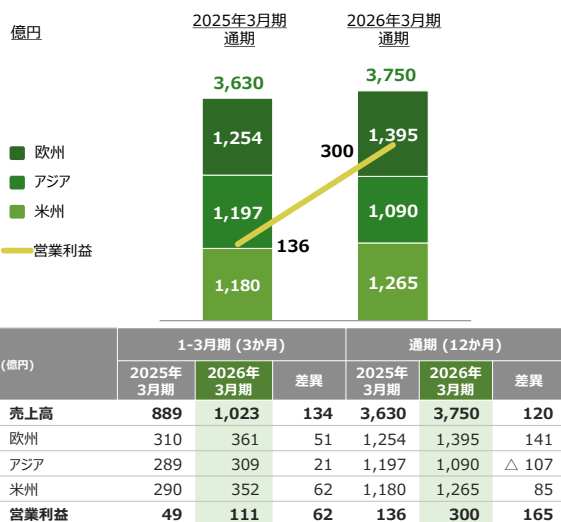
11

11ページは、事業セグメント毎に過去3か年度の累計の売上高および営業利益を示しています。各事業の詳細については次ページ以降のスライドでご説明します。

建築用ガラス事業 (通期：増収・増益 1-3月期：増収・増益)



売上高および営業利益は欧州において販売価格が改善したため、増加。
前年度に実施した生産停止に伴うコスト削減効果は引き続き寄与



欧州 (通期：増収・増益 1-3月期：増収・増益)

- 販売価格および販売構成が前年度比で改善
- フロート窯停止に伴うコスト改善が継続

アジア (通期：減収・増益 1-3月期：増収・増益)

- 日本では販売数量/構成が低下
- 太陽電池パネル用ガラスの需要は、米国関税政策等を踏まえた取引先の生産調整の影響が続くが、改善傾向

米州 (通期：増収・減益 1-3月期：増収・減益)

- 北米では商業用不動産市場の需要軟化が継続するが、原燃材料費上昇分の価格転嫁により販売価格は改善
- 南米ではチリの山火事により生産が一時停止
- 太陽電池パネル用ガラスの需要は堅調

(億円)	1-3月期 (3か月)			通期 (12か月)		
	2025年 3月期	2026年 3月期	差異	2025年 3月期	2026年 3月期	差異
売上高	889	1,023	134	3,630	3,750	120
欧州	310	361	51	1,254	1,395	141
アジア	289	309	21	1,197	1,090	△ 107
米州	290	352	62	1,180	1,265	85
営業利益	49	111	62	136	300	165

2026年5月11日 | 2026年3月期 通期決算報告

12

12ページは、建築用ガラス事業です。

建築用ガラス事業は、売上高および営業利益は増収増益でした。
営業利益は特に欧州において販売価格が改善したため増加しました。

欧州は、増収増益となりました。
需要の回復は想定より遅れているものの、当社の販売価格は上半期に大きく上昇した後下半期は安定して推移し、販売構成も前年度比で改善しました。
前年度のフロート窯停止に伴い、資産稼働率の改善、固定費の削減によるコスト改善も継続しています。

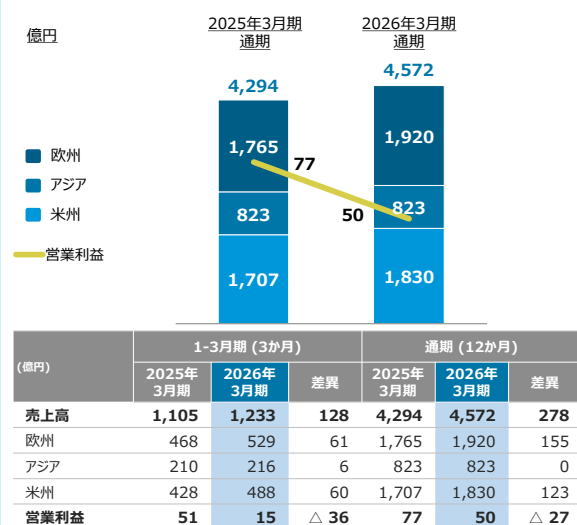
アジアは、累計では減収増益でしたが、1-3月期は増収増益となりました。
日本では、新設住宅着工戸数が減少していることもあり販売数量/構成が低下しました。
太陽電池パネル用ガラスの需要は、取引先において米国関税政策などを踏まえた生産調整が実施された影響により減少しましたが、第3四半期以降は取引先の生産が好調な米国工場に輸出する需要が増加し、改善の傾向が見られました。

米州は、増収減益でした。
北米は、商業用不動産市場の需要軟化が続きましたが、
原燃材料価格の上昇分を転嫁することができたため販売価格が改善しました。
南米は、需要はやや改善しましたが、第4四半期にチリで発生した山火事に伴い現地での操業を停止した影響を受けました。
太陽電池パネル用ガラスの需要は引き続き堅調です。

自動車用ガラス事業 (通期：増収・減益 1-3月期：増収・減益)



売上高は補修用ガラス事業を中心に販売価格の改善が進展し増収。
営業利益は北米新車用ガラス事業の一時的な生産効率低下の影響を受け減益



欧州 (通期：増収・増益 1-3月期：増収・減益)
アジア (通期：増収・減益 1-3月期：増収・増益)
米州 (通期：増収・減益 1-3月期：増収・減益)

- 欧州の自動車販売台数は低水準だが、販売構成が改善
- 日本では新車用の販売数量が伸び悩む
- 北米では補修用の販売価格が上昇、新車用の一時的な生産効率低下は継続。南米では販売数量が増加
- ドイツ工場、イタリア工場等欧州での生産体制見直しは計画通り進捗

2026年5月11日 | 2026年3月期 通期決算報告

13

13ページは自動車用ガラス事業です。

自動車用ガラス事業は、前年度比で売上高は増加しましたが営業利益は減少しました。補修用ガラス事業を中心に販売価格の改善が進んだ一方で、北米新車用ガラス事業の一時的な生産効率低下の影響を受けました。

欧州では、自動車販売台数は低水準でしたが、付加価値製品の拡大に伴い販売構成が改善しました。

日本では、新車用ガラス事業では、販売数量が国内販売用自動車向けは増加しましたが、米国関税政策の影響を受けて輸出用自動車向けは減少しました。

北米では、新車用ガラス事業は一部の拠点での生産効率が低下した影響が続いていますが、補修用ガラス事業で、特に第1四半期に、米国関税政策に伴い競合他社との関税額の差が寄与し販売価格が上昇した効果がありました。南米では、販売数量が改善しました。

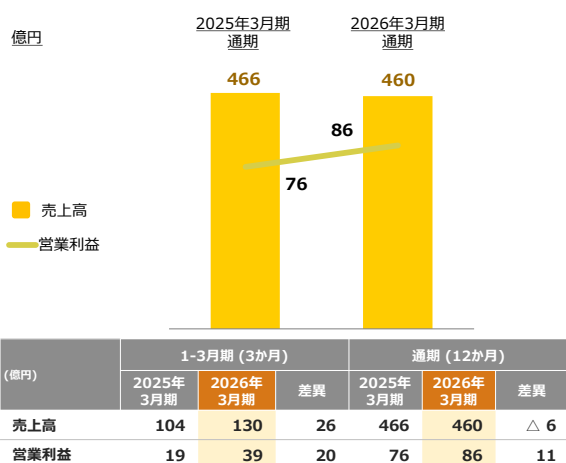
収益性改善のための施策として、北米生産効率への対策の他に、ドイツ工場およびイタリア工場をはじめとした、主に欧州における生産体制の見直しも計画通り進捗しています。

中長期的には自動車生産台数の緩やかな改善に伴う需要回復を見込んでおり、引き続き継続的なコスト削減努力や製品の高付加価値化とともに販売価格改善も進め、収益性改善に努めてまいります。

高機能ガラス事業 (通期：減収・増益 1-3月期：増収・増益)



当初計画通り販売構成が改善し、営業利益は増益



- ファインガラスは、10-12月期以降引き続き販売構成が改善
- プリンター用レンズは、プリンター・複合機に対する需要減少の影響を受ける
- グラスコードは補修用市場での堅調な需要が継続

2026年5月11日 | 2026年3月期 通期決算報告

14

続きまして14ページは高機能ガラス事業です。

通期の売上高は減少した一方で営業利益は増加しました。

1-3月期の売上高および営業利益は前年度を上回りました。

上半期は一部製品の販売時期の影響を受けましたが、下半期は当初計画通り販売が改善したため営業利益は増加しています。

ファインガラスは、上半期においては一部製品の販売が下半期にずれ込んだ影響を受けましたが、当初計画の通り、下半期は販売構成が改善しました。

プリンター用レンズは、取引先で米国関税政策の動向を見極める動きもあり、プリンター・複合機に対する需要減少の影響を受けました。

グラスコードは、エンジン用タイミングベルトの補修用市場での強い需要が継続しました。

2. 2027年3月期 業績予想

2027年3月期 業績予想



下半期から欧州市場が改善すると見込み、再度営業利益360億円の水準を目指す。
一方で、エネルギーコストの上昇等、厳しい事業環境が継続

(億円)	2026年3月期 実績		2027年3月期 予想		差異	
	上期	通期	上期	通期	上期	通期
売上高	4,208	8,795	4,400	8,800	192	5
営業利益	120	288	165	360	45	72
個別開示項目 (純額)	△ 6	△ 55	△ 15	△ 15	△ 9	40
個別開示項目後営業利益	114	233	150	345	36	112
金融費用 (純額)	△ 135	△ 283	△ 145	△ 295	△ 10	△ 12
持分法による投資利益**	25	53	30	55	5	2
税引前利益 (△損失)	4	4	35	105	31	101
当期利益 (△損失)	△ 34	55	5	40	39	△ 15
純利益 (△損失)*	△ 42	44	0	30	42	△ 14

注) 本業績予想は現状における前提に基づくものです。
後述の通り、当社は新生NSGグループに向けた抜本的な施策の実施を開示しており、その成立の場合には状況により修正される可能性があります。

*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)
**持分法投資に関するその他の利益 (△損失) を含む

2026年5月11日 | 2026年3月期 通期決算報告

16

続いて2027年3月期の業績予想です。

2027年3月期の通期業績予想は、
売上高は8,800億円、営業利益は360億円と予想しています。
売上高は2026年3月期と同様の水準を見ている一方で、
下半期から欧州市場が徐々に改善すると見ており、再度営業利益360億円の水準を
目指します。
一方で、地政学リスクもありエネルギーコストの上昇等、厳しい事業環境が続く見込みで
す。

数値予想の前提は、次のスライドでご説明いたします。

2027年3月期 業績予想の前提

グループ	<p>下半期より欧州市場の緩やかな改善を見込む。グループ全体でのさらなるコスト削減策を実施。一方で、エネルギー価格の上昇等によるコスト増加等、厳しい事業環境が続く</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 主要通貨に対して前年度に比較し円高を見込む ● 地政学リスクもありエネルギー価格や原材料価格は上昇、インフレによる人件費等その他コスト増加も継続するが、価格転嫁により吸収を図る
建築用ガラス	<p>欧州市場は下半期より徐々に改善を見込む。日本とポーランドでは新コーティング設備の稼働開始を予定。太陽電池パネル用ガラスの需要は改善傾向。エネルギー価格上昇の価格転嫁が課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 欧州：安定的な販売価格とコスト削減が寄与。ポーランドで新コーティング設備が稼働開始予定 ● アジア：日本では建築需要に注意の一方で、新コーティング設備稼働により販売価格と数量の改善を見込む ● 北米：不透明な経済見通しに伴い需要減少が継続する可能性。経済動向に注意 ● 南米：アルゼンチンで販売数量が改善。超インフレに伴うコスト上昇を販売価格への転嫁で吸収 ● 太陽電池パネル用ガラス：米国では堅調な需要が継続、アジアでは需要が前年度比で改善傾向
自動車用ガラス	<p>自動車用生産台数は緩やかな回復を見込む。原燃材料コスト増加に対して、販売価格改善交渉を継続。米国の政策動向や中東情勢が販売数量やコストに影響を与える可能性</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 製品の高付加価値化に伴う販売構成の改善が進展 ● 欧州での生産体制見直しに伴うコスト削減が寄与 ● 北米での一時的な生産効率低下は改善傾向 ● 引き続きコスト削減、高付加価値製品拡大、価格改善により収益性改善を目指す
高機能ガラス	<p>多くの事業で需要は堅調に推移。コスト増加の影響を販売数量/構成および販売価格の改善で吸収</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各事業で需要は概ね堅調に推移

スライド17に移ります。

グループ全体としては、

欧州市場は下半期から緩やかに改善する見込みです。

引き続きグループ全体でのさらなるコスト削減に向けた取り組みを進めていきますが、その一方でコスト増の継続も想定しており、厳しい事業環境が続く見込みです。

主要通貨は、前年度に比較し円高を見込んでいます。

地政学リスクもありエネルギー価格や原材料価格の上昇や、世界的なインフレ傾向の影響を受け人件費等その他のコストの増加も継続すると見えています。

その動向を注視しつつコスト増加に対しては価格転嫁等で吸収を図ります。

引き続きコスト削減、高付加価値製品拡大、価格改善を継続し、業績改善に努めます。

事業別では、

建築用ガラス事業は、欧州市場の需要改善を下半期から見込んでいます。

日本とポーランドにおいては、現在設備投資が順調に進捗している省エネガラス向け新コーティング設備の稼働開始を予定しており、

販売価格および数量改善への寄与が期待されます。

太陽電池パネル用ガラスは、米国での需要は堅調、アジアにおいても前年度比で改善します。

上昇するエネルギー価格の価格転嫁が課題です。

自動車用ガラス事業では、
自動車生産台数は緩やかな回復を見込んでおり、予想される原燃材料コストの増加に対しては、販売価格の改善交渉を継続する方針です。
米国の政策動向や中東情勢が販売数量やコストに影響を与える可能性があり、注視が必要です。
北米での生産効率の低下については引き続き改善の施策を進めていきます。

高機能ガラス事業では、
多くの事業で需要は堅調に推移する見込みです。
増加するコストの影響は販売数量/構成および販売価格の改善で吸収します。

3. 新生NSGグループに向けて

「2030 Vision : Shift the Phase」財務目標の進捗状況



欧州経済減速の影響を大きく受けた前年度からは回復したが、2027年3月期業績予想も目標を下回り、達成は厳しい状況。新生NSGグループに向けた抜本的施策の下で改善を目指す

		2027年3月期 目標	2030年3月期 目標	2026年3月期 通期実績	2027年3月期 業績予想
収益性 (P/L)	営業利益	640億円		288億円：欧州建築用ガラス事業の改善により前年度比で増益	360億円
	営業利益率 (ROS)	7%	10%以上	3.3%：前年度比で1.3pt改善	4.1%
キャッシュ創出 (C/F)	フリー・キャッシュ・フロー	270億円		11億円：運転資本の増加により前年度比で減少	
財務基盤の安定化 (B/S)	有利子負債	4,420億円		5,483億円：前期末から235億円増加	
	自己資本比率	15%		13.5%：前期末から3.1pt改善	

2026年5月11日 | 2026年3月期 通期決算報告

2030 Vision : Shift the Phase 説明資料
https://www.nsg.co.jp/-/media/nsg-jp/ir/ir-presentations/mtp2030presentation_j02.pdf

19

19ページでは中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」における財務目標の進捗状況についてご説明します。

2025年3月期から2030年3月期までの6年間を対象とする中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」においては、2027年3月期の財務目標として記載の5つの項目を掲げております。

2026年3月期の進捗について、まず、営業利益については、288億円となりました。営業利益率は前年度比で1.3ポイント改善し3.3%となっています。

フリー・キャッシュ・フローについては、運転資本の増加の影響を受け11億円となり、前年度比で減少しました。

有利子負債は5,483億円と前期末の5,248億円から235億円増加しました。自己資本比率は13.5%で、前期末から3.1ポイント改善しています。

欧州経済減速の影響を大きく受けた前年度からは回復しているものの、2027年3月期業績予想も営業利益360億円、営業利益率4.1%と目標を下回り達成は厳しい状況です。新生NSGグループに向けた抜本的施策の下で改善を目指してまいります。

「2030 Vision : Shift the Phase」4つの「D」の進捗状況



新生NSGグループに向けた抜本的施策の下でも中期経営計画および4つの「D」に対するコミットメントは不変。
引き続き優先順位を明確にしたうえで施策の推進を継続

1. Business Development

- ・ 省エネガラス向けコーティング設備投資が日本およびポーランドで順調に進捗（2025年6月16日、9月2日）
- ・ 北米の自動車用ガラス事業でフロントガラスおよびルーフガラス用高精度合わせガラスの生産が拡大
⇒需要が高まっている高付加価値製品への対応を加速

2. Decarbonization

- ・ 米国・オタワ事業所に太陽光発電システムを新設（2025年5月30日）
- ・ 英国・グリーンゲート事業所に移設した型板ガラス製造ラインが稼働、窯を2ラインで共用（2025年7月11日）
- ・ 日本において使用済太陽パネルのカバーガラスの水平リサイクルに成功（2026年4月3日）
- ・ CDP評価（「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」、気候変動「Aリスト」）（2025年7月23日、12月16日）

3. Digital Transformation

- ・ 映像解析AIを活用した職場安全管理システムの導入がグローバル全体で進行（2025年10月16日）

4. Diverse Talent

- ・ 従業員意識調査「Your Voice」の継続実施

2026年5月11日 | 2026年3月期 通期決算報告

2030 Vision : Shift the Phase 説明資料

https://www.nsg.co.jp/-/media/nsg-jp/ir/ir-presentations/mtp2030presentation_j02.pdf

20

20ページでは中期経営計画における4つの「D」の主な進捗についてご説明します。

中期経営計画においては、4つの「D」（Business Development, Decarbonization, Digital Transformation, Diverse Talent）をNSGグループの戦略的な柱に据え、各種施策を推進しています。

新製品および事業開発の強化を図るBusiness Developmentにおける主要な進捗として2点をご説明します。

まず1つ目は、建築用ガラス事業についてです。

当社の千葉事業所およびポーランドの拠点において、省エネガラス向けコーティング設備への投資が順調に進捗しています。

2つ目は、自動車用ガラス事業です。

北米の自動車用ガラス製造拠点においてフロントガラスおよびルーフガラス用の高精度合わせガラスの生産が拡大しています。

これらの施策により、世界的に需要が高まっている高付加価値製品への対応を加速していきます。

社会の脱炭素化への貢献を目指すDecarbonizationでは脱炭素社会に貢献する製品群の拡大を目指しています。主要な進捗4点をご紹介します。

1つ目は米国・オタワ事業所への太陽光発電システムの設置です。この製品には当社のガラスが使用されており、今後15年間にわたり再生可能電力が供給されます。

2つ目は英国・グリーンゲート事業所における、フロート板ガラスと型板ガラス共有の窯での生産スタートです。この施策により二酸化炭素の排出量の削減に貢献しています。

3つ目としては、日本において使用済太陽電池パネルのカバーガラスの水平リサイクルに成功しました。

4つ目はCDPの評価です。「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」に4年連続で選定され、さらに「気候変動」分野で最高評価「Aリスト」に初選定されました。

デジタルをフル活用した付加価値の高いオペレーションの構築を

Digital Transformationでは目標としています。

さらなる労働安全の向上を目指すための、映像解析AIを活用した職場安全管理システムの導入がグローバル全体で拡大しています。

Diverse Talentではフェーズシフトをもたらす

真に多様で包括的なチームを実現すべく様々な施策を進めています。

2025年10月には働きやすさや競争力向上を目指し、従業員意識調査

「Your Voice」を引き続き実施しました。

新生NSGグループに向けた抜本的施策の下でも中期経営計画と4つの「D」に対するコミットメントは不変であり、引き続き優先順位を明確にしたうえで施策を進めていきます。

新生NSGグループに向けた抜本的施策の概要



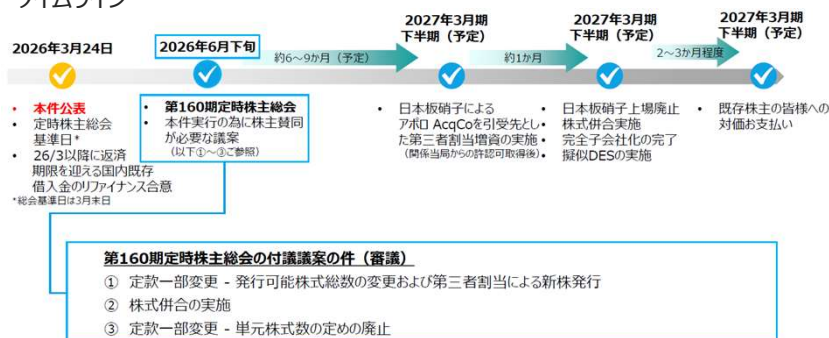
2026年3月24日に新生NSGグループに向けた抜本的施策を開示

1. 概要

定時株主総会において本件に必要な株主決議、および関係当局の許認可承認取得を経て施策を実施

- (1) アポロ・ファンドによる第三者割当増資（TPA）を通じて、総額1,650億円の出資を受領
- (2) 株式併合を通じて、既存株主から1株当たり500円（株式併合交付金額）で株式を買取り、非公開化
- (3) 主要金融機関による総額1,400億円の債務の株式化（擬似DES）の実施

2. タイムライン



2026年5月11日

2026年3月期 通期決算報告

新生NSGグループに向けた抜本的施策について 説明資料

https://www.nsg.co.jp/-/media/nsgcom/downloads/jp/2026/24mar2026fundamentalstrategicsteps_j02.pdf

21

22ページでは新生NSGグループに向けた抜本的施策をお伝えします。

NSGグループは2026年3月24日に公表しました通り、アポロ・ファンドとのパートナーシップのもと、同社による支援を受けながら、資本の再構成を通じた持続的な成長の実現に向けた抜本的施策の実施をすすめていくため、以下の点について決定いたしました。

アポロ・ファンドによる第三者割当増資（TPA）を通じて総額1,650億円の出資を受領すること。

株式併合を通じて、既存株主から1株当たり500円（株式併合交付金額）で市場の当社株式を買取り、非公開化を行うこと。

主要行による疑似DESの支援を通じて、総額1,400億円の債務の株式化を実施すること。

本施策は定時株主総会での決議および、当局の許認可承認を経て進められる予定です。これらの一連の手続きのタイムラインは記載の通りです。

この抜本的施策の下、資本を健全化し、競争力の強化による長期的な成長軌道を確認します。

4. まとめ

まとめ

1. 2026年3月期 通期決算概要

- 前年度比で増収増益。営業利益は建築用ガラス事業の改善により増加。
営業利益は通期業績予想を下回るが、純利益は一過性の税効果もあって上回る
- 主に欧州の建築用ガラス事業と米州の自動車用ガラス事業で、販売価格が改善。
一部事業・地域の生産効率低下やコスト増加の影響をフロート窯停止も含めたコスト改善により軽減
- 自己資本比率は13.5%と前期末より3.1pt改善。
フリー・キャッシュ・フローは運転資本の増加により前年度比で減少。
有利子負債は主に運転資本の増加と為替影響により増加

2. 2027年3月期 業績予想

- 下半期から欧州市場が改善すると見込み、再度営業利益360億円の水準を目指す。
一方で、エネルギー価格の上昇等、厳しい事業環境が継続

3. 新生NSGグループに向けて

- 欧州経済減速の影響を大きく受けた前年度からは回復したが、2027年3月期業績予想も目標を下回り、
達成は厳しい状況
- 中期経営計画および4つの「D」に対するコミットメントは不変。
引き続き優先順位を明確にしたうえで施策の推進を継続
- 2026年3月24日に新生NSGグループに向けた抜本的施策を開示

ご注意



当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場の経済環境および競争環境、製品需給、為替・金利相場、原燃料市場環境、法規制の変動等がありますが、これらに限定されるものではありません。

日本板硝子株式会社

補足資料

- 連結損益計算書 四半期別推移
- 事業部門別・地域別業績 四半期別推移
- セグメント情報
- 地域別売上高および営業利益
- 個別開示項目
- 為替レート・為替感応度
- 減価償却費・資本的支出・研究開発費
- 主なニュースリリース

連結損益計算書 四半期別推移



(億円)	2024年 3月期				2025年 3月期				2026年 3月期			
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期
売上高	2,080	2,122	1,925	2,198	2,164	2,060	2,075	2,104	2,102	2,106	2,198	2,389
営業利益	146	115	61	38	48	55	6	57	69	51	65	103
営業利益率	7.0%	5.4%	3.2%	1.7%	2.2%	2.7%	0.3%	2.7%	3.3%	2.4%	3.0%	4.3%
個別開示項目 (その他)	△ 8	11	6	△ 8	2	△ 2	△ 25	△ 27	17	△ 22	△ 1	△ 48
個別開示項目後営業利益 (△損失)	138	125	67	29	49	53	△ 19	30	85	29	64	55
金融費用 (純額)	△ 64	△ 77	△ 64	△ 78	△ 60	△ 66	△ 56	△ 71	△ 68	△ 68	△ 75	△ 73
持分法適用会社に対する金融債権の減損損失の戻入益 (△損失)	37	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
持分法による投資利益	10	12	15	14	11	14	12	18	13	16	15	13
持分法投資に関するその他の利益 (△損失)	11	△ 0	△ 1	△ 0	-	-	-	-	△ 4	△ 0	△ 0	△ 0
税引前利益 (△損失)	133	61	17	△ 35	0	1	△ 64	△ 23	27	△ 23	4	△ 4
当期利益 (△損失)	75	30	36	△ 32	27	△ 61	△ 59	△ 42	5	△ 38	△ 7	96
純利益 (△損失)*	70	27	37	△ 29	24	△ 63	△ 62	△ 38	△ 2	△ 41	△ 9	96
EBITDA	253	226	170	168	175	175	130	177	198	183	201	248

2026年5月11日 | 2026年3月期 通期決算報告

*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

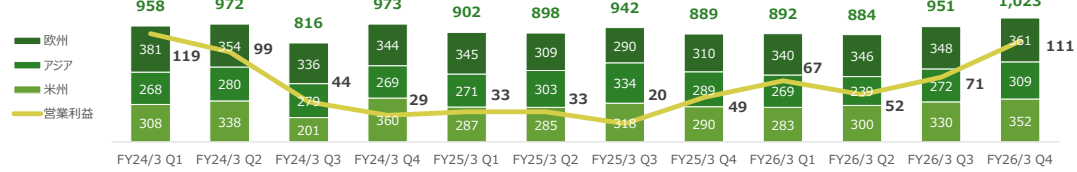
26

事業部門別・地域別売上高および営業利益 四半期別推移

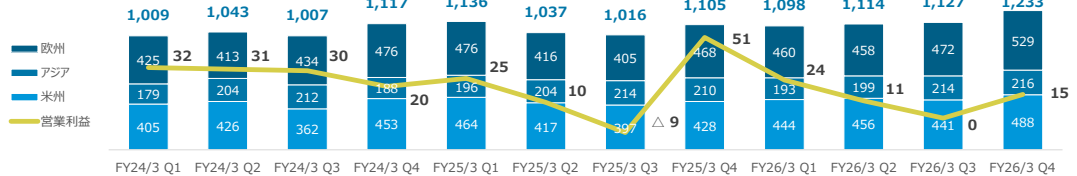


単位：億円

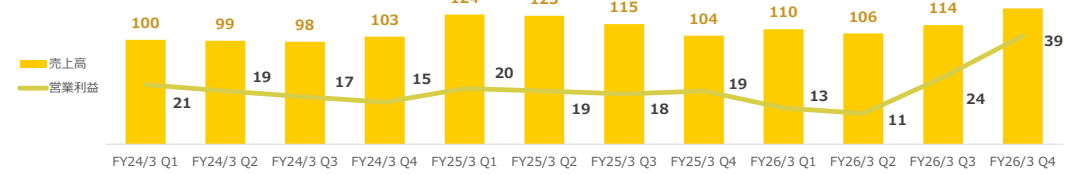
建築用ガラス事業



自動車用ガラス事業



高性能ガラス事業



セグメント情報



(億円)	2024年3月期					2025年3月期					2026年3月期				
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計
売上高: 建築用ガラス	958	972	816	973	3,718	902	898	942	889	3,630	892	884	951	1,023	3,750
欧州	381	354	336	344	1,415	345	309	290	310	1,254	340	346	348	361	1,395
アジア	268	280	279	269	1,096	271	303	334	289	1,197	269	239	272	309	1,090
米州	308	338	201	360	1,206	287	285	318	290	1,180	283	300	330	352	1,265
営業利益	119	99	44	29	291	33	33	20	49	136	67	52	71	111	300
売上高: 自動車用ガラス	1,009	1,043	1,007	1,117	4,176	1,136	1,037	1,016	1,105	4,294	1,098	1,114	1,127	1,233	4,572
欧州	425	413	434	476	1,747	476	416	405	468	1,765	460	458	472	529	1,920
アジア	179	204	212	188	783	196	204	214	210	823	193	199	214	216	823
米州	405	426	362	453	1,645	464	417	397	428	1,707	444	456	441	488	1,830
営業利益	32	31	30	20	113	25	10	△ 9	51	77	24	11	0	15	50
売上高: 高性能ガラス	100	99	98	103	399	124	123	115	104	466	110	106	114	130	460
欧州	25	26	26	30	106	28	23	23	28	102	29	27	25	31	112
アジア	71	69	67	69	275	91	95	89	72	347	77	75	85	95	332
米州	4	5	5	4	18	5	5	3	4	17	4	4	3	5	15
営業利益	21	19	17	15	71	20	19	18	19	76	13	11	24	39	86
売上高: その他	13	8	5	6	33	2	2	3	6	13	1	2	7	3	12
営業利益	△ 27	△ 34	△ 30	△ 26	△ 117	△ 31	△ 7	△ 23	△ 62	△ 123	△ 34	△ 22	△ 30	△ 62	△ 149
売上高: 合計	2,080	2,122	1,925	2,198	8,325	2,164	2,060	2,075	2,104	8,404	2,102	2,106	2,198	2,389	8,795
営業利益	146	115	61	38	359	48	55	6	57	165	69	51	65	103	288

2026年5月11日 | 2026年3月期 通期決算報告

地域別売上高および営業利益



売上高推移

(億円)	2024年3月期					2025年3月期					2026年3月期				
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計
欧州	831	792	796	850	3,269	849	749	717	806	3,121	830	831	845	921	3,427
アジア	518	553	557	526	2,155	557	602	637	571	2,367	540	513	572	620	2,245
米州	718	768	567	817	2,870	756	707	718	722	2,903	731	760	775	845	3,110
その他*	13	8	5	6	33	2	2	3	6	13	1	2	7	3	12
合計	2,080	2,122	1,925	2,198	8,325	2,164	2,060	2,075	2,104	8,404	2,102	2,106	2,198	2,389	8,795

営業利益 (△損失) 推移

(億円)	2024年3月期					2025年3月期					2026年3月期				
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	累計
欧州	25	4	10	△ 21	18	△ 52	△ 60	△ 78	△ 17	△ 206	△ 3	0	△ 19	△ 7	△ 28
アジア	82	81	68	49	280	74	96	100	83	353	64	46	84	155	348
米州	66	63	12	36	178	56	26	6	52	141	42	27	30	17	116
その他*	△ 27	△ 34	△ 30	△ 26	△ 117	△ 31	△ 7	△ 23	△ 62	△ 123	△ 34	△ 22	△ 30	△ 62	△ 149
合計	146	115	61	38	359	48	55	6	57	165	69	51	65	103	288

* 「その他」セグメントの売上高、営業利益は地域別に区分していない

個別開示項目

(億円)	2025年3月期 通期	2026年3月期 通期
子会社および事業の売却による収益	4	18
リストラチャージ費用の引当金の戻入益	-	15
非流動資産の減損損失の戻入益	0	1
棚卸資産の評価減	△ 2	△ 1
係争案件の解決に係る収益（△費用）純額	0	△ 1
非流動資産の減損損失	△ 8	△ 5
自然災害（チリの山火事）の影響による損失	-	△ 9
リストラチャージ費用	△ 82	△ 17
その他包括利益計算書を通じて公正価値を測定する 金融資産の売却に伴うサイクリング損失	-	△ 22
のれんの減損損失	△ 14	△ 34
非流動資産の売却による収益	47	-
引当金の戻入益	2	-
その他	△ 0	△ 0
個別開示項目 純額	△ 52	△ 55

為替レート・為替感応度



期中平均レート

	2024年 3月期				2025年 3月期				2026年 3月期				2027年 3月期 見通し
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	
英ポンド	172	177	179	182	197	195	195	194	193	196	199	202	194
ユーロ	150	153	154	157	168	165	164	163	164	168	172	174	163
米ドル	138	140	143	144	156	152	152	152	145	146	149	151	148
ブラジル・レアル	27.7	28.6	29.0	29.4	29.9	28.3	27.5	27.1	25.5	26.3	27.0	27.7	25.8
アルゼンチン・ペソ	超インフレ会計の適用により、期末レートのみ使用												

期末レート

	2024年 3月期				2025年 3月期				2026年 3月期			
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4
英ポンド	183	182	181	191	204	191	196	193	197	199	211	211
ユーロ	158	157	157	163	173	159	162	161	168	173	183	183
米ドル	145	148	143	152	162	143	157	148	144	149	156	160
ブラジル・レアル	29.8	29.5	29.2	30.4	29.3	26.2	25.3	25.9	26.2	27.8	28.3	30.4
アルゼンチン・ペソ	0.57	0.42	0.18	0.18	0.18	0.15	0.15	0.14	0.12	0.11	0.11	0.11

為替感応度

他の前提に変動がない条件で、為替レートが他の通貨に対して1%変動した場合の影響額

	2026年 3月期
資本	43.0億円
当期利益	1.0億円

減価償却費・資本的支出・研究開発費

(億円)	2025年3月期 通期	2026年3月期 通期	2027年3月期 通期見通し
減価償却費	494	542	560
資本的支出	628	443	460
通常投資	323	327	380
戦略投資	305	116	80
研究開発費	99	111	123
建築用ガラス事業	35	38	42
自動車用ガラス事業	30	34	35
高機能ガラス事業	9	9	12
その他	25	30	35

2025年11月～2026年5月 主なニュースリリース



発表日	ニュースリリース
2025年 12月4日	板ガラス製造業として初めてResponsibleGlassの創設メンバーに参加
2025年 12月16日	日本板硝子、CDP「気候変動」分野で最高評価「Aリスト」に初選定
2025年 12月19日	イタリア拠点でCONAI Ecopack Award 2025特別賞を受賞
2026年 2月5日	「スポーツエールカンパニー2026」に認定
2026年 2月27日	公益財団法人 日本板硝子材料工学助成会 第43回 研究成果発表会を開催
2026年 3月12日	中国最大の世界的な化粧品・パーソナルおよびホームケア用品の展示会「Personal Care and Homecare Ingredients (PCHI)」に出展
2026年 3月13日	舞鶴事業所が「令和7年度消防団等地域活動表彰」を受賞
2026年 3月17日	AI搭載小型点検ロボット「ugo mini」を津事業所に導入
2026年 3月19日	中国最大・最先端のマシンビジョンが集う展示会 Vision China (Shanghai) 2026に出展
2026年 3月24日	第三者割当による新株式発行、定款の一部変更、株式併合及び単元株式数の定める廃止、債務の株式化による資本再構成並びに親会社及び主要株主である筆頭株主の異動についてのお知らせ
2026年 3月24日	執行役の報酬の自主返上について
2026年 4月3日	使用済太陽光パネルのカバーガラスを用いた水平リサイクルの実証実験に成功
2026年 4月8日	世界最大の化粧品原料展示会「in-cosmetics Global 2026」に出展

2026年5月11日 | 2026年3月期 通期決算報告

(<https://www.nsg.co.jp/ja-jp/media>) 33

NSG

GROUP